エディトリアル

川崎市立多摩病院救急災害医療センター 副センター長　田中 拓

本特集では最近の成人教育と人材育成について考える．筆者が研修医のころ，指導とはそれぞれの医師が自身の経験や知識をそのままの形で後輩である医師に伝達することであった．その後標準化が一般的となり，Evidence Based Medicine（EBM）が根付き，伝えられる内容は均質になってきた．次のステップとして，では良い医師とは何か，どのようにして良い人材を育てるのか，が問われるようになった．医療の世界に限らず，あらゆる組織において人は最大のリソースである．その人を育てる教育は，未来を育てることにほかならない．本特集ではさまざまな切り口から成人である医療者の育成についてお示しする．

内藤貴基先生には成人教育論について教師主導型，自己主導型，自己決定・相互変革型といった代表的な３つの型をご紹介いただいた．教育対象はますます多様になり，その多様性をどのように受け入れ，伸ばし，自分自身も伸びていくかが問われるようになっている．

石川和信先生にはシミュレーション医学教育についてご説明いただいた．シミュレーション教育の利点と弱点，それを支える人材の必要性を詳述いただいている．またこれからのシミュレーション教育の持つ可能性についてもご呈示いただいた．

西城卓也先生には医療者教育学についてご説明いただいている．医育機関において医療者教育の専門家を擁することがグローバルスタンダードとなる中で，日本初の岐阜大学大学院医学系研究科に医療者教育学修士課程が設置された．同課程の内容とこれからについてご紹介いただいた．

日下勝博先生には少し異なる視点からMBA（経営学修士）についてご紹介いただいた．医療の現場では人間を健康にするだけでなく，組織を健康にすることが地域に大きく貢献する．そのための人づくりについてご自身の経験を踏まえた内容は大変興味深いものである．

教育は大学や研修病院だけで行われるのではない．米田博輝先生には医師としての根源的な目的や関心を発見する場として地域の果たす役割の大きさを言葉にしていただいた．また，現在は大学に所属し，地域での学びと大病院での学びの双方がお互いを尊重し，多様な学びの場をつくるとする内容は大変納得できる．

世界中が新型コロナウイルス感染の影響を受けている．成人教育も例外ではなく変化を余儀無くされている．特に講習会やシミュレーションといった多人数が接触する形式の教育機会はWeb形式の導入や人数制限などさまざまな工夫が求められる．これほど急激な変化を求められたことは経験がない．しかし，私たちは学習と教育によって前に進もうとしている．

本特集が皆さまの毎日の学ぶこと，教えることのお役に立てれば幸いである．